

『紅葉を訪ねて： 都立庭園』

## 都立庭園散策報告 (2021年11月28日(日))

紅葉時期には「新型コロナウイルス」が入ってくる前の2019年12月に、皆さんにご提案して出掛けましたが、今年再度ビスターリの会として庭園巡りを企画した。一週間位前からTVニュースで各地の紅葉情報が伝えられていたので、最盛期を過ぎたかと若干心配であったが、伊藤、池田、柳澤のお三方に参加いただいた。当日は強力な“晴れ女”のご参加も得て快晴の日和で歩くことができた。皆さんは予めご案内していた「東京メトロ一日乗車券:¥600」をお持ちになっていた。

9時に伊藤さん池田さんは駒込駅改札口に集り、柳澤さんとは「六義園:正門」で合流した。門ではアルコール消毒と、手のひらの検温をおこなってから入園券の購入となった。入門時には十人以上の行列であったが、広い庭園内ではまばらになってしまう。

「六義園」は柳沢吉保(柳澤さんのご先祖様?)が作った“回遊式築山泉水”で中央の池の周りに茶屋とか亭が配置されている。池の中の北側にある島には約15~6m高の「藤代峠」という築山(標高:35m)もあり、お二方は“一座登頂”された。今や少し最盛期を過ぎているが、モミジ、カエデ、ハゼ(黄櫨)、ナナカマド、ドウダツツジの紅葉が綺麗だ。特に鬼灯(ホウズキ)に似た赤いクチナシの実が目についた。モミジやナナカマドは既に赤茶けて終りに近い葉もあるが、まだ一部緑色の葉も残っていた。この庭園は周りに高層ビルが見えないのが良かった。

駒込駅に戻り、ここから後楽園駅へ行き、10時40分に「小石川後楽園」に着く。広い庭園は水戸光圀の作でやはり“回遊式築山泉水”である。国の“特別史跡”と“特別名勝”の重複指定を受けている。明の朱舜水の意見で中国名のついた橋、亭などがある。この紅葉は最も見応えがあった。冬支度のため、松の木の雪吊りはまだ作業途中だが、害虫集めの藁の“腰巻”は巻かれていた。後楽園の白い屋根やジェットコースターが見えるのは興ざめた。

11時半に後楽園駅に向かい、大手町駅経由で清澄白河駅へ行く。12時15分に「清澄庭園」へ着いた。三菱財閥:岩崎弥太郎の迎賓館として使用され、伊豆、伊予、紀州、讃岐、生駒、備中、佐渡などから“名石”を集めた庭で、“大磯渡り”など、池の縁に大石を配して歩けるようになっている。池畔のベンチで池、対岸を眺めながら昼食を摂った。緑が多く、紅葉の木は少なかった。

13時半に出て三越駅を経由して、銀座線で新橋駅に行き、14時20分に「浜離宮」に着いた。「浜離宮」は将軍家の鷹狩場として使用された。獲物の鴨を監視する“覗き”小屋が幾つか残っている。園は広く松の木が多い。特に「三百年の松」は太い枝が広く張り出して立派だ。東京湾近くに「新樋の口山」と云う小山があり、本日二座目を登頂された方もおられた。

15時「浜離宮」を出て新橋駅に戻り、休憩のため珈琲店を探したが二店で満席、(自分達を棚に上げて)「全く人出が多い！」と憤慨、結局「ルノアール」(店内にはルノアールの複製画が多く掛かり、静かでゆっくりできる、お勧め)に落ち着いて、山行の話を始め、コロナ禍:新株“オミクロン”(15番目で、これまで既に14種の変

種が現れた)や政治の低迷を嘆くなど話題は多彩にわたり、1 時間半(コーヒー一杯で粘って)色々と語り合った。最後は銀座線車内で流れ解散した。

以上 陽田



六義園：ナナカマドの紅葉



六義園：池に映える緑と赤



小石川後樂園：涵徳亭



小石川後樂園：紅葉



清澄庭園：磯渡り (右の岩上に亀)



浜離宮庭園：「五百年の松」